

平成 11 年度 まちづくり大学専門講座

まちづくり実践ゼミ 開催

このたび、住民主体のまちづくりを支援する人材育成のため、若手建築士、コンサルタント、大学生(院生)を対象に まちづくり大学専門講座 「まちづくり実践ゼミ」を開催しました。

この講座は、「いきいき下町推進協議会」のご協力を得て、平成8年度から開催しているもので、今年度は10月16日(土)から30日(土)にかけ、5回にわたって実施しました。今回は従来の講義形式でなく、現地を体験する実践的な内容に変更しており、受講生の皆さんにも好評でした。

各回の講座内容等は下記のとおりですが、地元代表者からは住民と専門家、行政が一体となったまちづくりの経緯等について紹介をしていただき、続いて、コンサルタントからは地域の沿革、現地の見所等現地見学にあたっての事前説明、そして、行政担当者からは、まちづくりで活用された各種制度の概要説明が行われました。

その後、1~2班に分かれ、単に街並みを見るだけでなく、コレクティブ住宅の住民との意見交換等も行いながら、90分~2時間程度現地を見て歩き、最後に質疑応答の上、閉会しました。



震災から間もなく5年が経過しようとしています
 が、今後も住民が主体となった協働のまちづくりを進

めていくうえで、より一層、住民と行政の立場を理解できる専門家が必要になります。

当まちづくりセンターといたしましても、引き続き、まちづくりに関する支援事業、人材育成事業、情報提供事業等に取り組んでいきたいと考えておりますので、今後、取り上げて欲しいテーマ等、ご意見をいただきますようお願い申し上げます。

(こうべまちづくりセンター)

実施日(10月)	16日(土)	19日(火)	23日(土)	26日(火)	30日(土)	
実施地域	野田北部	深江	真野	HAT神戸	東川崎	
内容	・街なみ環境整備事業 ・事業用受皿住宅 ・地区計画(区画整理)	・緑のまちづくり ・マンション再建	・建築物共同化 ・密集事業 ・コレクティブ住宅	・コレクティブ住宅 ・災害公営住宅 ・水際広場 ・区画整理	・下町モデル住宅 ・下町街区整備事業 ・街路事業	
講師	コンサルタント	森崎 輝行	後藤 祐介	宮西 悠司	小林 郁雄	阪下 明
	地元代表	浅山会長	廣瀬副会長 佐野事務局長	村瀬会長		後藤会長
	行政(神戸市)	住宅局 狩野 裕行	都市計画局 橋本 宗明	都市計画局 茗荷 修	都市計画局 根岸 芳之	住宅局 大塚 映二
集合場所	ペーパードーム 長田区海運町 3-3-8	深江会館 東灘区深江本町 3-5-7	真野地域福祉センター 長田区東尻池 6-3-19	国際健康開発センター 中央区脇浜海岸通 1-5-1	東川崎地域福祉センター 中央区東川崎町 5-1-1	

◇第3期こうべ市民安全まちづくり大学◇

◆「まちづくり講座」が開講しました◆

★☆☆安全なまちづくりの技法をワークショップ形式で楽しみながら身につける「まちづくり講座」が、今年も開講しました。9月16日の第1回講座のテーマは、「地域の課題について考えよう」です。はじめに、まちづくり株式会社コー・プラン代表の小林 郁雄 氏より、「地域の課題を考え、ワークショップをやってみよう」と題して、ご講演をしていただきました。ワークショップの目的を他都市の先進事例も紹介いただきながら分かりやすくご説明していただきました。

★☆☆ワークショップでは、各区の受講生の皆さんから、防災、防犯、事故のそれぞれについて、地域で日ごろから感じている次のような課題が出てきました。

<防災に関する課題>	<防犯に関する課題>	<事故に関する課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・山崩れ対策 (灘区、兵庫区) ・川の危険性 (兵庫区) ・道が狭く、緊急車両の進入が困難 (垂水区) ・木造家屋が多すぎる (中央区) ・災害に対する警戒感が希薄になっている (須磨区) ・災害時の連絡の取り方 (北区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯灯、街灯の設置が必要な場所がある (垂水区) ・違法駐車の問題 (垂水区) ・夜道が暗いので怖い (須磨区) ・地下道が長く、人通りも少ないので怖い (中央区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り、子どもの事故防止 (兵庫区) ・速度標識を守らない車が多い (兵庫区) ・夜間燈がついていない (兵庫区)

特に、コミュニティのあり方については活発な意見がたくさん出ました。

<コミュニティのあり方に関する課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・防災福祉コミュニティの趣旨や課題をどれだけ多く、地域の人達に浸透させるか、伝えていくかが重要 (須磨区) ・地域が高齢化しており、若い人の後継者づくりに困っている (兵庫区) ・年齢を問わず、一人でも多くの人達がまちづくりに参加しやすい機会と場をつくるのが大切 (垂水区) ・コミュニティ内における情報連絡網の整備、また横の連携 (兵庫区、長田区) ・向こう三軒両隣の間人関係の大切さを見直す (須磨区) ・日頃からの住民間のコミュニケーションが大事 (東灘区、灘区、須磨区、垂水区、西区) ・個人の自覚と周囲との連携 (西区) ・自己責任を個人が持つ (東灘区、北区、須磨区) ・防災訓練を実施しても限られた人の参加があるだけで、もっと多くの参加者の協力を得たい (東灘区) ・大人と子どもと一緒に活動できるようなコミュニティ組織づくり (中央区) ・毎月実施している給食会に大勢の人の参加を望んでいる (中央区) ・防災、安全マップが必要と感じている (兵庫区、北区) ・非常時のマニュアル、ルールがないので、作り方が知りたい (兵庫区)

今回の講座で出てきたこれらの課題を踏まえて、次回以降の講座では安全で安心なまちづくりの具体的な進め方を考えていきます。

★☆☆旗上げによるアンケートでは、受講生の皆さんが4名1組になり、相談後に旗上げをすることで、参加者同志の話し合いが活発になされました。

◇質問内容◇

Q1. 4人の合計年齢は次のうちどれですか？

- | | |
|----------------|----|
| ①250歳以上 | 2組 |
| ②200歳以上 250歳未満 | 8組 |
| ③150歳以上 200歳未満 | 5組 |
| ④150歳未満 | 0組 |
| ⑤わからない | 0組 |

Q2. まちづくり講座の内容でどのようなことに一番取り組みたいですか？

- | | |
|----------------|----|
| ①安全マップづくり | 7組 |
| ②災害図上訓練 | 0組 |
| ③防災実地訓練、救命講習 | 3組 |
| ④防災施設見学会 | 1組 |
| ⑤コミュニティ安全計画づくり | 3組 |

まち資源について、あまり安直にストリートファニチャー等にモチーフを活用することの問題と発見・発掘にあたって、地域住民が共感を得るためのプロセスの重要性について述べた。第二の問題として、その地域にめばしいまち資源がない場合は、どうすればいいのかということである。

中央区でも、まちづくりのビジョンを考える場合、この点について大いに悩んだ。というのは、中央区はフラワーロードを挟んで、旧生田地域と旧葺合地域に分かれるが、まったく地域特性が異なっているためである。旧生田地域は、異人館で知られる北野・山本地区や旧居留地、南京町などの歴史や国際性にあふれた街並み、三宮センター街、ハーバーランドなどの大規模な商業集積等々数え切れない程、まち資源に恵まれているのに対し、旧葺合地域には、まち資源として誰もがすぐに思いつくものが、ほとんどないのが実情である。その点については、都市計画局時代に、東部新都心の周辺整備を検討していた際にも同様の思いを感じていたが、とりあえず、旧西国街道が東西道路としてほぼ旧ルートと同じところを通っていたので、まずそれに着目した。中央区に移ってからは、前述のとおり、地元要望があったこともあり、旧西国街道沿に「インフィオラータ神戸」等のイベントを実施したり、石碑や案内板を設置することにより、歩きやすい歩行者道路の整備をめざすとともに、旧西国街道を地域住民の心をつなぐシンボルとして活用していった。「インフィオラータ神戸」では、なんであじさい通りでチューリップを敷きつめるのか、というような笑話があったり、案内板や石碑も古めかし過ぎるのではという懸念があったが、それなりに地元には定着してきたし、由緒すら感じられると言っては言い過ぎであろうか。



あまりまち資源を直接的に表現しすぎることの問題はすでに述べたとおりだが、それなりにプロセスさえ踏めば、歴史的遺産を復興・復元することは、まちの

特性を際立たせ、住民が地域に愛着を持ってもらうために有効であることが少なくない。石、木材などの自然素材を使用すれば、年月がたてば古色蒼然として昔からそこにあったように思えるのが不思議である。観光地と呼ばれるもので、この類のものは少なくなく、戦後復元された沖縄の守礼門はその代表格と言える。ただ、まちづくりで復元・復興する場合、時代考証等が困難であるので、個人的には、それ風を作って案内板等現代的用途を持たした方が好ましいと思う。例えば旧西国街道で、さらに復元・復興したいと考えていたものとして高札場—インフォメーション—イベント案内板、一里塚—公園、水車—動力を活用した空カンつぶし機、茶店—ポケットパーク等々があるが、歴史的遺産をどのように復元し活用するかを考えるのも楽しいことである。

次に着目したのは、伝説、文学、地名等、無形のまち資源である。きっかけは前述の「おばさまマップ」づくりの際に、婦人会の方から生田川の辺りにある「乙女塚の祠」を観光資源として生かしてはという提案を受けたことであった。「乙女塚」は「求女塚」とともに東灘、灘にかけて古墳が存在し、一人の乙女をめぐる二人の男が争う悲恋の伝説はよく知られたところであるが、平安期の「大和物語」以降、生田川が舞台となり、以来明治時代まで数多くの文学の題材となってきた。室町時代の観阿弥作といわれる謡曲「求塚」や森鷗外の戯曲「生田川」がその代表作であるが、このほか布引の滝や生田の森などを扱ったものを含めると実に 20 数作の舞台になっていることがわかった。このあたりのことは中央区発行の小冊子『歴史と文学の舞台「生田川」』が詳しいので詳述は避けるが、あまり知られていないまち資源と言えるだろう。これをどう生かしていくかは、今後のこととなるが、布引 36 歌仙の歌碑やそれにちなんだ「雲井」「琴ノ緒」「国香」等の優美な地名とともに、生田川再整備に生かして行ければと願っていた。それらのことでヒントを得たのは、まち資源がなければつくってしまえばよいということであった。「ウソも百ぺん言えばホントになる」「いわしの頭も信心から」とのことわざどおり、遊び心でみんなでまち資源をつくってしまおうということが始まったのが、「葺合ランドマーク事業」の創作民話である。

(前中央区まちづくり推進課長・現教育委員会社会教育部
体育保健課長 見通 孝)

まちセン イベント案内

11月のオープンギャラリーは・都市計画月間 関連展示

11月1日(月)～14日(日)

“住みつづけられるまち”私の提案

第16回まちづくり設計競技参加作品展

◎まちづくり設計競技では、古い下町の情緒を残したまちづくりのあり方や新しいまちのあり方など今後のまちづくりの参考になる提案やアイデアがいっぱい詰まっています。

11月15日(月)～30日(火)

景観ポイント賞入選作品パネル展

◎景観ポイント賞は、まちの景観形成をリードする建築物等を表彰するもので、まちの新しい顔づくりとなる建物や道路など今後のまちづくりの参考にしてください。

主催：都市計画局アーバンデザイン室・住宅局住環境整備課・こうべまちづくりセンター

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
11月6日(土)～23日(火)	居留地返還 100年記念 小松 益喜 展 詳しくはあーばんとーく 10月号を ご参照ください	こうべまちづくりセンター 協力 小磯記念美術館
11月25日(木)～30日(火)	神戸サンフォトクラブ展	妹尾 太郎
12月2日(木)～7日(火)	第23回 ART '81展	ART '81協会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

11月1日(月)～30日(火)	都市計画月間関連企画 上記イベント案内をご参照ください	都市計画局・住宅局との共同 企画
12月までの第2日曜日午後	ペチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アスク音楽院

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 祝日・土・日曜は
まちづくり相談コーナー で受け付けます
(こうべまちづくり会館 4F)
時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館 4F)
会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
受付は、午前10時～午後6時
電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目 2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546